

9月に入り朝方は涼しくなりましたが、まだまだ厳しい残暑が続きますが皆様いかがお過ごしでしょうか。福岡新水巻病院が開院して早3ヶ月です。あつという間のように感じます。

集中治療室（ICU）のフルオープンに、救命救急室（ER）の活躍もあり、これまで救命の困難であった心肺停止後の患者さんや重症気管支喘息、重症心筋梗塞、重症多発外傷、重症くも膜下出血、急性腎不全などでも救命することが可能となってきました。職員一同さらに切磋琢磨し、地元住民の方のさらなる安心を生むべく努力して行きたいと思えます。さらに当院は救急車での来院だけでなく、「二十四時間、365日急患受付」を掲げており、通常の夜間外来も充実させていきたいと考えていますのでお気軽にご利用下さい。

福岡新水巻病院に9月より新しい仲間が増えました。リウマチ科、整形外科の田中宏明先生です。整形外科も4人の体制となり待ち時間の短縮、診療のさらなる向上が期待できます。田中先生で当院の常勤医は十八人となります。ちなみに病院グループの歴史的なことを申しますと、下関カマチ病院（現下関リハビリテーション病院）は蒲池先生が昭和49年に一人で始められ、小倉の小文字病院は昭和56年三人の医師で、福岡和白病院は昭和62年に五人で、新行橋病院は平成9年に七人で開院しました。現在福岡和白病院には三十五人の常勤医がおり、当院も今後医師の増員を行い、さらなる医療サービスの提供を達成したいと考えています。

今回は体制の話が多くなりましたがこの辺で「ひとりごと」らしい話をひとつ。自然に触れ、親しむことは人生を豊かにするためにも必要なことだと思います。病院の裏に川がありますが、（曲川、まがりがわ）8月の土用うなぎのころにはたくさん釣りが、毎夜十人も毎日おられたでしょうか、うなぎを釣っていました。太いのは3センチにもなるそうです。売るのがと聞くと近所のおばさんに配るそうです。自分は糖尿があるので食べないそうです。昼にはたくさん釣る（サギ）がいるということを外科の多賀先生が教えてくれました。鷺には白鷺と青鷺がいるそうでここにはどっちもいるそうです。最近はや年中見られる地域が多くなつたようですが、この鷺は今はいなくなつてしまい、ちゃんと渡り鳥をしているのだそうです。また来年来てね、と言っておられましたが、われわれ日本人はこういう何気ない自然の営みと触れ合いながら生きているのだなとつくづく感じるこの頃です。第6章。

